

# 健康増進編

## 1 健康診査

令和4年度に市区町村が実施した健康診査の受診者数は123,861人で、男58,693人、女65,168人となっている(表1)。

検査結果の状況をみると、「糖尿病個別健康教育対象者(ア)」40,951人、「高血圧症個別健康教育対象者(イ)」36,161人などとなっている(表2)。

表1 性別にみた健康診査における受診者数の年次推移

(単位:人)

	平成30年度 (2018)	令和元年度 ( '19)	2年度 ( '20)	3年度 ( '21)	4年度 ( '22)
総数	122 577	125 187	114 415	119 621	123 861
男	57 997	59 392	54 351	56 978	58 693
女	64 580	65 795	60 064	62 643	65 168

注:1 老人保健法に基づき市区町村が実施していた基本健康診査は、平成20年度より高齢者の医療の確保に関する法律に基づき保険者が実施する特定健康診査と、健康増進法に基づき市区町村が実施する健康診査に分かれた。本報告では市区町村が実施した健康診査について計上している。

2 健康診査の受診者数は、「健康診査」、「訪問健康診査」及び「介護家族訪問健康診査」の受診者数の合計である。

表2 性別にみた健康診査における検査結果の状況

(単位:人)

令和4(2022)年度

	受診者数	検査結果								
		血圧		脂質異常		糖尿病		貧血 (疑いを含む。)	肝疾患 (疑いを含む。)	腎機能障害 (疑いを含む。)
		高血圧症 個別健康教育 対象者(ア)	高血圧症 個別健康教育 対象者(イ)	脂質異常症 個別健康教育 対象者(ア)	脂質異常症 個別健康教育 対象者(イ)	糖尿病 個別健康教育 対象者(ア)	糖尿病 個別健康教育 対象者(イ)			
総数	123 861	12 769	36 161	23 450	31 464	40 951	16 676	18 667	18 688	23 156
男	58 693	6 093	18 382	11 689	14 741	18 882	9 447	8 769	11 006	11 026
女	65 168	6 676	17 779	11 761	16 723	22 069	7 229	9 898	7 682	12 130
		受診者数に占める割合(%)								
総数	100.0	10.3	29.2	18.9	25.4	33.1	13.5	15.1	15.1	18.7
男	100.0	10.4	31.3	19.9	25.1	32.2	16.1	14.9	18.8	18.8
女	100.0	10.2	27.3	18.0	25.7	33.9	11.1	15.2	11.8	18.6

注:「個別健康教育対象者(ア)」は、特定健康診査及び健康増進法に基づく健康診査受診者のうち、検査結果から生活習慣病の発症予防等のため指導が必要な者を行い、「個別健康教育対象者(イ)」は、特定健康診査及び健康増進法に基づく健康診査受診者のうち、検査結果から生活習慣病の重症化予防等のため個別健康教育による指導が有効であると医師が認めた者をいう。

## 2 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診

令和4年度に市区町村が実施した歯周疾患検診の受診者数は365,481人、骨粗鬆症検診の受診者数は310,373人となっている。

受診者数に占める各指導区分の割合をみると、「要精検者」は歯周疾患検診65.9%、骨粗鬆症検診16.1%となっている。(表3)

令和4年度の市区町村における検診実施率は、歯周疾患検診81.6%、骨粗鬆症検診63.0%となっている(表4)。

表3 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診の実施状況

(単位:人)

令和4(2022)年度

		受診者数 <sup>1)</sup>	指 導 区 分					
			要精検者	受診者数に占める割合(%)	要指導者	受診者数に占める割合(%)	異常認めず	受診者数に占める割合(%)
歯周疾患検診	総数	365 481	241 029	65.9	86 078	23.6	37 980	10.4
	40歳	77 989	47 382	60.8	21 590	27.7	8 957	11.5
	50歳	94 029	60 386	64.2	24 053	25.6	9 475	10.1
	60歳	89 061	60 431	67.9	20 031	22.5	8 501	9.5
	70歳	104 402	72 830	69.8	20 404	19.5	11 047	10.6
骨粗鬆症検診 <sup>2)</sup>	総数	310 373	49 966	16.1	86 128	27.7	173 860	56.0
	40歳	30 431	766	2.5	3 918	12.9	25 724	84.5
	45歳	28 231	808	2.9	3 725	13.2	23 678	83.9
	50歳	45 029	1 894	4.2	7 027	15.6	36 067	80.1
	55歳	42 571	4 219	9.9	10 684	25.1	27 620	64.9
	60歳	48 151	8 926	18.5	16 500	34.3	22 631	47.0
	65歳	50 933	12 840	25.2	19 237	37.8	18 774	36.9
70歳	65 027	20 513	31.5	25 037	38.5	19 366	29.8	

注：1)指導区分の計数が不詳の市区町村があるため、受診者数と指導区分の計が一致しない。

2)「骨粗鬆症検診」の対象者は女性である。

表4 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診の実施市区町村数及び検診実施率の年次推移

	歯周疾患検診					骨粗鬆症検診 <sup>3)</sup>				
	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
	(2018)	('19)	('20)	('21)	('22)	(2018)	('19)	('20)	('21)	('22)
実施市区町村数	1 261	1 337	1 307	1 379	1 417	1 087	1 081	1 033	1 069	1 095
検診実施率 <sup>1)</sup> (%)	72.6	77.0	75.2	79.4	81.6	62.6	62.2	59.5	61.5	63.0
全国市区町村数 <sup>2)</sup>	1 737	1 737	1 737	1 737	1 737	1 737	1 737	1 737	1 737	1 737

注：1)検診実施率=(実施市区町村数/全国市区町村数)×100

2)「全国市区町村数」のうち、高知県安芸郡奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村については、中芸広域連合として数えたものである。

3)「骨粗鬆症検診」の対象者は女性である。

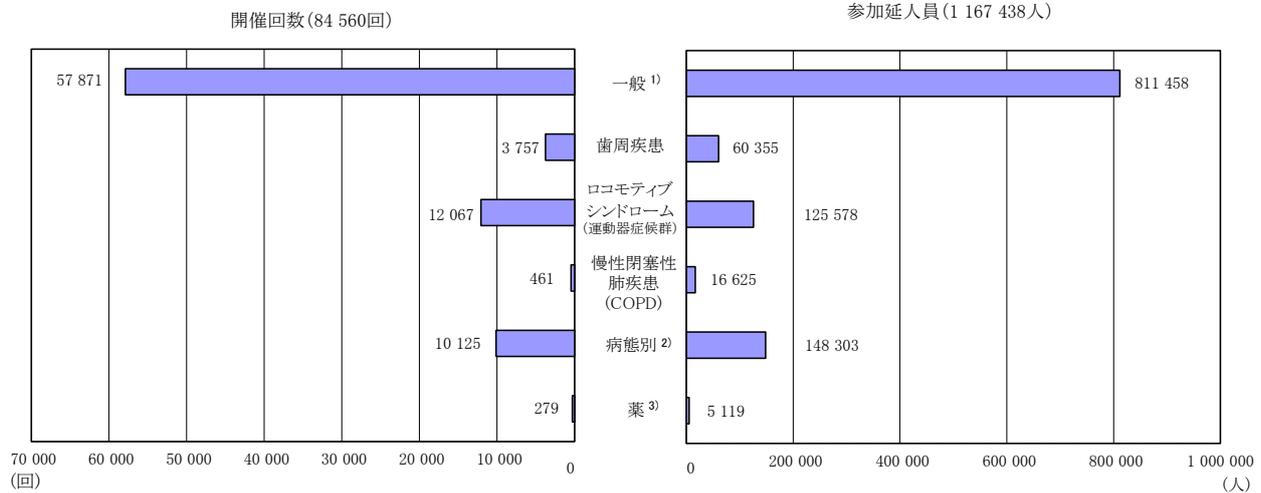
### 3 健康教育

令和4年度に市区町村が実施した集団健康教育の開催回数は84,560回、参加延人員は1,167,438人となっている。

内容別にみると、開催回数、参加延人員ともに、「一般」が最も多くなっている。(図1)

図1 集団健康教育の実施状況

令和4(2022)年度



注：1) 「一般」とは、生活習慣病の予防のための日常生活上の心得、健康増進の方法、食生活の在り方等健康に必要な事項の教育をいう。

2) 「病態別」とは、肥満、高血圧、心臓病等と個人の生活習慣との関係及び健康的な生活習慣の形成についての教育をいう。

3) 「薬」とは、薬の保管、適正な服用方法等に関する留意事項、薬の作用・副作用の発現に関する知識の教育をいう。

### 4 健康相談

令和4年度に市区町村が実施した健康相談の被指導延人員は734,017人であり、そのうち重点健康相談は245,595人となっている。

重点健康相談を内容別にみると、「病態別」が73,812人と最も多くなっている。(表5)

表5 健康相談の年次推移

(単位:人)

		被指導延人員				
		平成30年度 (2018)	令和元年度 ( '19)	2年度 ( '20)	3年度 ( '21)	4年度 ( '22)
総	数	1 171 722	1 109 938	601 991	652 087	734 017
重点健康相談	総	424 630	402 721	194 112	207 009	245 595
	高血圧	63 707	63 210	34 597	37 077	43 161
	脂質異常症	21 315	20 441	12 839	13 031	13 429
	糖尿病	34 361	35 868	19 970	19 519	19 133
	歯周疾患	68 835	65 447	20 057	26 242	32 030
	骨粗鬆症	85 777	76 305	30 183	31 927	47 881
	女性の健康	18 390	18 916	12 547	13 010	16 149
	病態別 <sup>1)</sup>	132 245	122 534	63 919	66 203	73 812
総合健康相談	747 092	707 217	407 879	445 078	488 422	

注:1) 「病態別」とは、重点健康相談の「高血圧」から「女性の健康」を除く、肥満、心臓病等の病態別に、個人の食生活その他の生活習慣を勘案して行う相談指導等をいう。

## 5 訪問指導

令和4年度に市区町村が実施した訪問指導の被訪問指導実人員は117,100人となっており、訪問指導の対象者別にみると、「要指導者等」が75,645人(64.6%)と最も多くなっている(表6、図2)。

表6 訪問指導の対象者別にみた被訪問指導実人員の年次推移

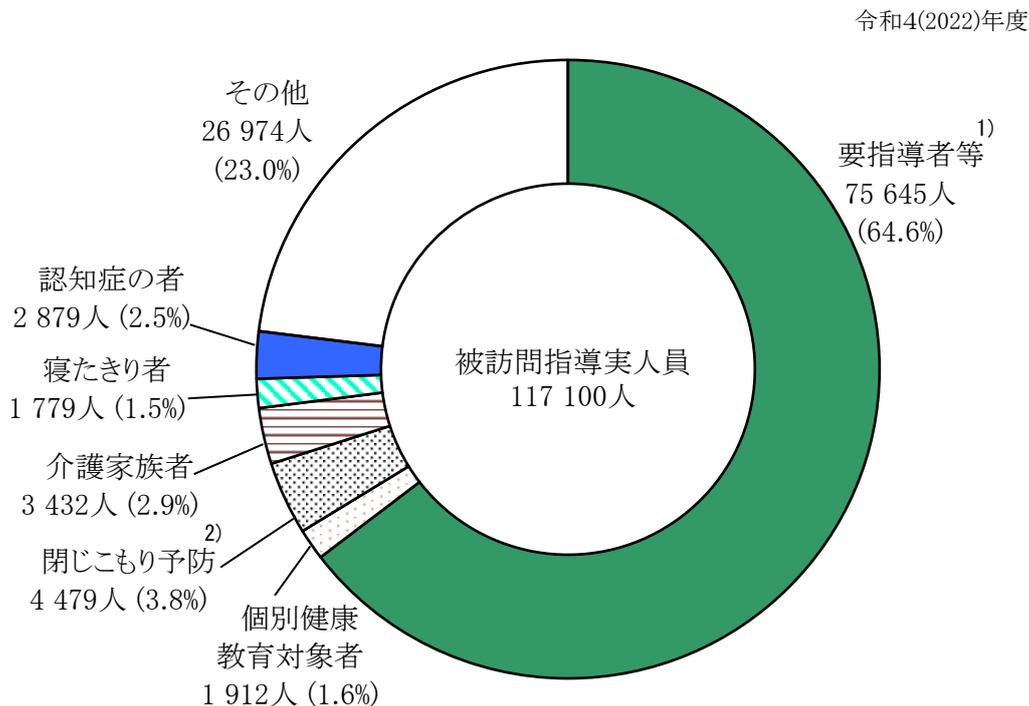
(単位:人)

	平成30年度 (2018)	令和元年度 ( '19)	2年度 ( '20)	3年度 ( '21)	4年度 ( '22)
総 数	194 002	178 728	122 853	113 720	117 100
要 指 導 者 等 <sup>1)</sup>	118 098	108 128	72 570	71 647	75 645
個別健康教育対象者	2 527	2 433	1 571	1 709	1 912
閉じこもり予防 <sup>2)</sup>	5 113	5 335	4 649	4 227	4 479
介護家族者	5 111	4 935	4 248	3 727	3 432
寝たきり者	2 138	1 794	1 508	1 481	1 779
認知症の者	4 399	3 659	3 311	3 541	2 879
そ の 他	56 616	52 444	34 996	27 388	26 974

注: 1) 「要指導者等」とは、生活習慣病改善のための指導が必要な者をいう。

2) 「閉じこもり予防」とは、介護予防の観点から支援が必要な者で、健康管理上訪問指導が必要と認められた者をいう。

図2 訪問指導の対象者別にみた被訪問指導実人員



注: 1) 「要指導者等」とは、生活習慣病改善のための指導が必要な者をいう。

2) 「閉じこもり予防」とは、介護予防の観点から支援が必要な者で、健康管理上訪問指導が必要と認められた者をいう。

## 6 がん検診

### (1) がん検診の受診者数及び受診率

令和4年度に市区町村が実施したがん検診の受診率は、「胃がん」6.9%、「肺がん」6.0%、「大腸がん」6.9%、「子宮頸がん」15.8%、「乳がん」16.2%となっている(表7、統計表3)。

表7 がん検診受診者数及び受診率の年次推移

(単位:人)

		平成30年度 (2018)	令和元年度 ( '19)	2年度 ( '20)	3年度 ( '21)	4年度 ( '22)
胃がん	受診者数	1 766 448	1 643 782	1 238 125	1 442 990	1 419 841
	受診率 <sup>1)</sup> (%)	8.1	7.8	7.0	6.5	6.9
肺がん	受診者数	3 686 194	3 469 659	2 767 645	3 038 779	2 999 743
	受診率 <sup>1)</sup> (%)	7.1	6.8	5.5	6.0	6.0
大腸がん	受診者数	4 181 664	3 962 860	3 312 944	3 528 729	3 462 736
	受診率 <sup>1)</sup> (%)	8.1	7.7	6.5	7.0	6.9
子宮頸がん	受診者数	3 632 852	3 548 256	3 205 650	3 459 578	3 360 455
	受診率 <sup>1)</sup> (%)	16.0	15.7	15.2	15.4	15.8
乳がん	受診者数	2 412 810	2 344 305	1 947 967	2 209 074	2 128 252
	受診率 <sup>1)</sup> (%)	17.2	17.0	15.6	15.4	16.2

注:「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」(平成20年3月31日健康局長通知別添)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳(「胃がん」は50歳から69歳、「子宮頸がん」は20歳から69歳)までとした。「受診者数」及び「受診率」については、「IV 用語の解説」27、28頁「がん検診」及び「がん検診受診率」参照。

1)受診率は、対象者数等の計数が不詳の市区町村を除いた値である。

### (2) がん検診受診率の状況

令和4年度の市区町村のがん検診受診率の状況をみると、がん検診受診率が「0~10%未満」と低い市区町村数は、「肺がん」が1,006(全国市区町村数に占める割合57.9%)と最も多く、次いで「胃がん」が976(同56.2%)となっている(表8、図3)。

表8 市区町村におけるがん検診受診率の状況

令和4(2022)年度

	全国 <sup>1)</sup> 市区町村数	がん検診受診率別市区町村数					
		0~10%未満	10~20%未満	20~30%未満	30~40%未満	40~50%未満	50%以上
胃がん	1 737	976	611	100	13	3	1
肺がん	1 737	1 006	597	111	15	3	2
大腸がん	1 737	952	669	100	11	1	1
子宮頸がん	1 737	159	927	510	102	13	7
乳がん	1 737	84	766	597	210	46	15

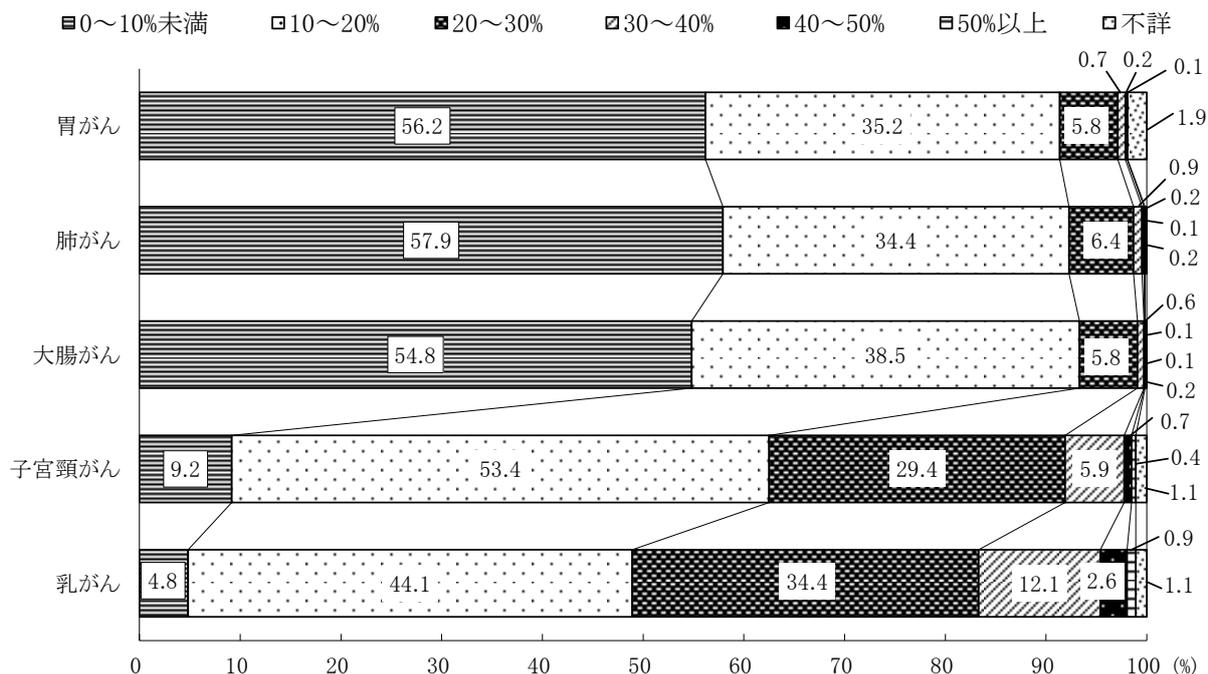
注:「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」(平成20年3月31日健康局長通知別添)に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳(「胃がん」は50歳から69歳、「子宮頸がん」は20歳から69歳)までとした。「受診率」については、「IV 用語の解説」28頁「がん検診受診率」参照。

1)「全国市区町村数」にはがん検診受診率が不詳の市区町村を含む。

なお、「全国市区町村数」のうち、高知県安芸郡奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村については、中芸広域連合として数えたものである。

図3 市区町村におけるがん検診受診率の状況

令和4(2022)年度



注：「がん対策推進基本計画」（平成24年6月8日閣議決定）及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日健康局長通知別添）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳（「胃がん」は50歳から69歳、「子宮頸がん」は20歳から69歳）までとした。「受診率」については、「IV 用語の解説」28頁「がん検診受診率」参照。

(3) 令和3年度がん検診受診者における要精密検査の受診状況

令和3年度に市区町村が実施したがん検診における要精密検査者のうち、がんであった者数のがん検診受診者数に対する割合は、「胃がん」0.10%、「肺がん」0.03%、「大腸がん」0.15%、「子宮頸がん」0.03%、「乳がん」0.33%となっている（表9）。

表9 令和3年度がん検診受診者における要精密検査の受診状況

(単位:人)

令和3(2021)年度

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
がん検診受診者数 <sup>1)</sup>	1 441 173	3 051 356	3 536 875	3 453 280	2 222 260
要精密検査者数 <sup>1)</sup>	82 736	45 940	192 536	81 468	137 631
精密検査受診率 <sup>2)</sup> (%)	84.4	82.5	69.9	77.6	89.9
がん検診受診者数に対する割合 (%)	5.74	1.51	5.44	2.36	6.19
がんであった者数 <sup>1)</sup>	1 497	811	5 479	942	7 232
がん検診受診者数に対する割合 (%)	0.10	0.03	0.15	0.03	0.33
要精密検査者数に対する割合 (%)	1.81	1.77	2.85	1.16	5.25
精密検査未受診者数 <sup>1)</sup>	4 873	2 768	25 628	5 255	4 016
精密検査未受診率 <sup>2)</sup> (%)	5.9	6.0	13.3	6.5	2.9
精密検査未把握者数 <sup>1)</sup>	8 005	5 284	32 264	12 998	9 910
精密検査未把握率 <sup>2)</sup> (%)	9.7	11.5	16.8	16.0	7.2

注：「がん対策推進基本計画」（平成24年6月8日閣議決定）及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日健康局長通知別添）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳（「胃がん」は50歳から69歳、「子宮頸がん」は20歳から69歳）までとした。

1) がん検診受診者数については令和3年度受診者を令和4年度報告で改めて把握したものである。また、令和4年度に精密検査を受診し、結果が判明した者についても含めている。

2) 率の算出に当たっては、「精密検査未受診者数」及び「精密検査未把握者数」の計数が不詳の市区町村を除いた値である。「精密検査受診率」、「精密検査未受診率」及び「精密検査未把握率」については、「IV 用語の解説」28頁参照。

## 7 肝炎ウイルス検診

令和4年度に市区町村が実施した肝炎ウイルス検診の受診者数は、「B型肝炎ウイルス検診」564,008人、「C型肝炎ウイルス検診」563,260人となっている。

B型肝炎ウイルス検診において「陽性」と判定された者は2,887人、C型肝炎ウイルス検診において「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定された者は950人となっている。(表10)

令和4年度に市町村が実施した肝炎ウイルスに関する健康教育の開催回数は504回、参加延人員は5,743人、健康相談の開催回数は1,448回、参加延人員は5,613人となっている(表11)。

表10 肝炎ウイルス検診の実施状況

(単位:人) 令和4(2022)年度

	B型肝炎ウイルス検診		C型肝炎ウイルス検診	
	受診者数	「陽性」と判定された者	受診者数	「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定された者
総数	564 008	2 887	563 260	950
40歳	69 116	134	69 088	26
41～44歳	45 997	132	46 031	33
45～49歳	51 296	186	51 341	54
50～54歳	55 967	254	56 018	65
55～59歳	48 320	226	48 338	80
60～64歳	65 747	340	65 709	93
65～69歳	85 288	553	85 026	152
70～74歳	75 347	585	74 948	186
75～79歳	38 217	308	38 107	95
80歳以上	28 713	169	28 654	166

表11 肝炎ウイルスに関する健康教育・健康相談の実施状況の年次推移

		平成30年度 (2018)	令和元年度 ( '19)	2年度 ( '20)	3年度 ( '21)	4年度 ( '22)
健康教育	開催回数 (回)	779	727	337	361	504
	参加延人員(人)	36 443	17 340	5 797	5 180	5 743
健康相談	開催回数 (回)	1 833	1 784	1 387	1 307	1 448
	参加延人員(人)	10 355	9 133	6 330	4 847	5 613